

一歩会だより 第15号

美しい環境・豊かな自然
豊かな時間、豊かなところ！

テーマ：汚染を考える

遍路道
クリーンアップ



ごみゼロ
阿波踊り大作戦



昭和
コミュニティ
ガーデン



緑化推進
絵画コンクール



NPO法人 徳島共生塾一歩会

〒770-0804 徳島市中吉野町1丁目53の1

Tel/Fax 088-623-0960

E-mail: zs100@mf.pikara.ne.jp ホームページ: <http://www.toku-ippokai.org/>

2013年06月発行



会員のみなさまへ「一步会これからの活動について」・・・理事長 新開善二・・・2

★特集 環境汚染を考える

○ 環境大気汚染の日本への影響	吉野川市	瀬尾規子・・・4
○ 環境汚染について考える	阿南市	山田達男・・・5
○ 汚染と破壊	美馬市	矢野豊次・・・7
○ 福島支援ボランティア報告	徳島市	林大輔・・・8
○ 静かなる漁師町、伊島の海洋汚染を考える	小松島市	富田欽二・・・10
○ 汚染とは	鳴門市	川井ふみ子・・・12
○ 「放射能汚染の入門講座」を聴いて	小松島市	富田欽二・・・13
○ 放射能汚染豆知識	ネットの情報より	・・・14

★一般寄稿。活動など

○ 新しい環境の持つ深い意味	徳島市	内田武雄・・・16
○ 遍路道情報「加茂谷へんろ道の会」設立	徳島市	新開善二・・・17
○ 県南スキルアップ塾講座事業について	阿南市	米川比呂志・・・18
○ つながり広がれ！ほたる川	吉野川市	宮本晴義・・・19
○ 出合い	阿波市	笠井光顕・・・20
○ 東北支援、ゴーヤの苗チャリティ販売	徳島市	新開善二・・・21
○ ビオトープの「一步村」構想	板野町	黒田明久・・・22
○ ジェネレーションギャップ	那賀町	谷口右也・・・23
○ 一步会設立からユースへの思い	北島町	福谷洋介・・・24
○ にんじんの支援と交流から	藍住町	小林節子・・・25

★事務局だより

○ 総会と環境講演会の報告	事務局	・・・28
○ 平成25年度役員決まる。 新人役員の紹介	事務局	・・・29
○ 一步会の若い活動仲間です	事務局	・・・30
○ 編集後記など	事務局	富田欽二・・・31

★裏表紙 砂浜の汚れを無くして海亀を迎えよう



*表紙のデザイン、レイアウトは、会員内田武雄さん（徳島市）の手によるものです。



これからの活動取り組みについて

会員みなさまには、常日頃から当会活動にご理解ご支援を頂き、ありがとうございます。

17年目を迎える一步会ですが、24年度もみなさまのお力で順調に事業を遂行することができました。組織としての強み、持ち味の発揮が出来ることを本当に有難く皆さまと一緒に喜び合いたいと思います。種々の事情で活動にご参加困難な会員みなさまにも、いつも一步会活動に目を向けて頂き、只々、感謝しております。これからも一步会に入っていて良かった、自分のためにも良かったと言えるよう、みんなの誇りが持てるNPOであり続けるよう、副理事長や役員各位のお力を頂きながら、会の運営に努力してまいります。

●一步会の基本ポリシー 設立当初から一貫して下記の通りです。

「自然に優しいまちづくりに向けて、できることを一步一步、行動に移そう！」

●一步会の初めの活動をいつまでも大事に続けよう。

一步会の原点活動は、「地域の公園づくり」「アドプトプログラムによる道路清掃」であります。昭和コミュニティガーデンの維持作業は毎月第一日曜日に、周辺県道の清掃作業とあわせて実施しており、これからも地道に続けてまいります。多くの花木で自然いっぱいのこの場所を是非覗いてください。

●徳島県から頂いた事業は着実に遂行しよう。

「暮らしの緑化推進絵画コンクール」「阿南沿海域・東山溪公園の監視事業」「県工業技術センターの」建物緑化作業」は、当会が選ばれて県から頂いた大事な事業です。責任をもって、着実なる事業遂行をしなければなりません。

●次世代を担って頂ける若手会員の育成に留意しよう。

会員全体に高齢化が進み、体力の不調を告げる方が多くなり、これだけは宿命で仕方ありません。ここまで培ってきた一步会の取り組みは、何とか次世代に引き継ぎたいと誰もが願っています。若手会員“一步会ユース”が定期的集まって、検討会を続けております。現在の活動で、分かりやすいことはできるだけ一步会ユースの名前を前面にだして実施すよう代表の黒田君、福谷君に伝えております。そして若い他の団体との交流も深めて、若手の力を集めての取組みを応援して参ります。

●遍路道美化活動で共に汗した方々との活動交流を深めよう。

この8年間、実施してきた遍路道美化作業は、各地の多くの方々と一緒になった貴重な経験でした。これらの方々との絆を大事にし、遍路道を活かした地域づくり活動に取り組んでまいりたいと思います。

“四国霊場と遍路道の世界遺産化運動”は、四国四県県政の大きな課題であります。これには、民間の力の盛り上げ、協力がなくては不可能です。先の長いことではありますが、目標を定めてなすべきことを少しづつ行動に移すことです。そのため、徳島県への事業提案を只今検討中であります。

今年もみなさまのお元気なご参加、ご支援をお願いいたします。

以上

特集

“環境汚染を考える”

～今私たちの周りは、
地球は、身近な自然は
どうなっているのか～



越境大気汚染の日本への影響

吉野川市 瀬尾規子(薬剤師)

近年、大気汚染物質が国境を越えて外国にも影響を及ぼす「越境大気汚染」が懸念されています。ヨーロッパでは、1960年代～1970年代にかけて、酸性雨による森林被害や湖沼の酸性化が大きな問題となりました。特に、ドイツのシュバルツバルト（黒い森）の森林被害は有名です。また、スカンジナビア半島南部やアメリカ北東部の湖沼が酸性化し、魚類がまったく棲息しない「死の湖」が数多く出現していることは、驚きです。

日本も、中国の急速な工業化に伴い、大気汚染の脅威にさらされています。今年も、特にPM2.5という微小粒子物質の飛来が問題になりました。PMというのは、粒子状物質（Particulate Matter）の略で、粒子径が $2.5\mu\text{m}$ 以下のものをPM2.5と呼びます。大気汚染物質には、ばい煙、粉じん、自動車排出ガス、揮発性有機化合物などがあります。このうち、発生の由来で、工場などから物質の燃焼で排出される「ばいじん」、物質の破砕や選別により飛散する「粉じん」、自動車排出ガスによる「粒子状物質（PM）」に分類され、



環境中の存在形態で、降下ばいじん、浮遊粒子物質（PM10）、微小粒子状物質（PM2.5）に分類されます。PM2.5は、粒子が小さいため、気管支や肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器疾患だけでなく、肺ガンなどを引き起こす可能性があると言われていています。通常の花粉用のマスクでは防ぐことができず、N95規格を満たしたマスクでないと防げません。因みにスギ花粉の大きさは、 $30\mu\text{m}$ から $40\mu\text{m}$ です。私が勤めるドラッグストアでは、数百枚あったN95規格のマスクが飛ぶように売れ、完売しました。北京では、大気が霞むほどPM2.5が発生し、喘息や気管支炎で苦しむ住民が、多数病院に駆け込んでいました。日本にも風向きによって、西日本や関西に中国からPM2.5が飛来し、スモッグのような大気汚染が見られました。蔵王の雪を溶かすと真っ黒になったという報道は、ショッキングでした。徳島も黄砂とともに影響を受けました。

そのほか、中国からの酸性降下物の日本への影響も懸念されています。中国は環境汚染に対する取り組みやインフラ整備が遅れています。燃料として石炭を燃やしている西安では、大気汚染がひどく、多くの喘息患者が出ています。日本においても、亜硫酸や亜硝酸ミストに由来する酸性



雨によって、関東や関西のスギの衰退、赤城山のシラカバ林や丹沢のモミ林、ブナ林などの立枯れなどの被害が顕在化しつつあります。さらに、人体への影響も否定できません。

有害物質は、偏西風によって大気中を浮遊し、地球規模で汚染が進みます。2年前、福島原発から放出された放射性物質は、4日後にはアメリカ西海岸に到達し、さらに1週間後にはアイスランド周辺まで達しています。越境大気汚染を防ぐためには、国境を越えた対話が必要です。未来の子どもたちに、美しい地球を残すためには、国家エゴを捨て、地球レベルで環境を考えていくことが必要ではないかと思えます。

『環境汚染について考える』

阿南市在住 山田達男

東日本大震災から2年余が経過した。この大震災によって起きた環境問題は、人・物・水・大気等々、多大な影響を受けた。こうした事故は、世界各地で大なり小なり頻りに発生している。

——地球が誕生して46億年。そこで地球の生い立ちを顧みると、40億年前に海の原型が誕生した。それから5億年して微生物が誕生し、20億年してオゾン層ができ、人類は約300万年前に誕生したと言われている。そして今、この地球上には少なくとも300万種類の生きものが棲んでいると言われている。これらが生きるために弱肉強食や共存共栄を繰り返しながら、自然生態系が形成され、今日の社会構造となっていることはご存じと思う。

地球を支配している人間は、生きていくために幸福を求め、広めていく過程に文化が発達し、経済が生まれた。反面、自然界を破壊する事態も生まれ、大気・土壌・水質面に汚染が発生し、生物が生存するに困難な局面が生じている。それは、自然界と人間が作り上げた物が相容れられない事象が大きな被害をもたらす原因となっている。いわゆる水や雪であったり、火山や地震であり、津波等々が起因して起きる物と人間同士の争いから生じる紛争も原因している。こうした状況下に於いて、環境汚染を防ぐには何をどうすればと考える以前の問題である。

確かに、文化(科学・化学)の発達によって自由な世の中になった事が幸せなのかどうかである。これまで発達した文化を後戻りさせることは不可能である。その最たるものが原子力である。

旧ソ連で起きてチェルノブイリ事故・米国スリーマイル島の事故、そして東日本大震災による福島原発事故が物語っている。この原発からの放射能汚染を回復させるには、最低30年とも言われている。政府が進めている除染法では、洗浄した水や削った土をどう解決させるのか、雨水と一緒に最終は文句を言わない海へ流され、文句を言う漁師には補償金で解決させる。真の放射能を減らす対策の施策はありながら、悲しいかな政府は、これを認めようとしていない。

この放射能の元凶はセシウム137である。このセシウム137の安全基準の濃度が日本は500ベクレル、ドイツは8ベクレルとなっている。日本人はドイツ人の63倍も放射能に抵抗力があるのでしょうか。そうではなく、騙されやすい鈍感な国民である、とある学者は言っている。

右の表は2011年原発事故直後の数値。

この数値は原子力マフィアが安全基準を作成。日本はこれまで安全基準はなかった。事故から6日後政府は大慌てで食品・飲料の「放射能残留基準」を決めた。反面ドイツは人の健康を最優先で配慮した基準、つまり大人8ベクレル、子ども4ベクレルという「安全基準」となっている。WHOが1ベクレルとしたのは科学的根拠に基づく数値である。

次ページの表は事故発生後、9ヵ月して政府が出した数値。しかし、ドイツの基準値より12.5～25倍も緩い基準であり、WHO(世界保健機構)の「国際安全基準」は1ベクレル。政府は真っ赤な嘘で国民を騙してきたことになる。

【表1】世界に見る食べ物・飲み物の基準値

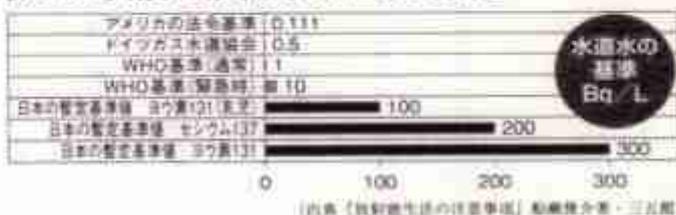
(1キログラム当たり)

*EUとは「欧州諸子カ共同体(ユートラム)」による基準値(ベクレル=5g)

放射能の種類	基準値
(放射性ヨウ素)	
アメリカ	170ベクレル(幼児:55ベクレル)
EU	500ベクレル(幼児:150ベクレル)
ドイツ	8ベクレル(幼児・子ども・青少年:4ベクレル)
日本	飲料水:300ベクレル(乳児:200ベクレル) 牛乳・乳製品:300ベクレル 野菜類(根菜、芋類を除く):2000ベクレル
(放射性セシウム)	
飲料水/牛乳・乳製品	
アメリカ	1200ベクレル
EU	飲料水:1000ベクレル 牛乳・乳製品:500ベクレル (幼児:全て150ベクレル)
ドイツ	8ベクレル (乳児・子ども・青少年:全て4ベクレル)
ウクライナ	飲料水:2ベクレル 牛乳・乳製品:100ベクレル (幼児:全て40ベクレル)
日本	200ベクレル
野菜類(根菜、芋類を除く)	
アメリカ	1300ベクレル
EU	1250ベクレル
ドイツ	8ベクレル(幼児・子ども・青少年:4ベクレル)
ウクライナ	40~70ベクレル(幼児:40ベクレル)
日本	500ベクレル(穀類・肉・魚なども同数値)

【出典】「ベジタブルスデイズ」2011年1月1日発行号「放射能から子どもを守る」

【グラフ2】飛びぬけてゆるい、日本の規制値



【表2】食品中の放射性セシウムの新たな規制値案

食品群	規制値
野菜類	500
穀類	500
肉・卵・魚・その他	500
牛乳・乳製品	200
飲料水	200

見直し

食品群	規制値
一般食品	100
牛乳	50
飲料水	10
乳児用食品	50

圏内から獲れる魚介類は軒並み 1000 ベクレル超を検出。獲れた魚は「ゴミだべ。猫も食わね・・・」と漁民は怒る。

次に、「放射線測定器」数値改ざんである。放射線測定器の設置業者に文科省から数値の改ざんを要求してきた。同省に応じない業者はバッサリ切って捨てられたのである。また、ある業者には数値を 2 割程度低くするように指示。つまり政府は「正しい数値は困る。2 割低くしろ」とねつ造、応じなかった業者を切り捨てた。これが真相のようである。

【図P】

セシウムは陽子が17個、中性子が82個、合計137個の核子(陽子と中性子の総称)から出来ています。それを $^{137}_{55}\text{Cs}$ と書き表します。

電子はマイナスの電気を帯びています。陽子は電子1個分に相当する量の、プラスの電気を帯びています。中性子は電気に中性(ゼロ)です。

中性子は陽子1個と電子1個からできているようです(下図)。

この式で電子を主辺に移動すると、中性子=電子+陽子、となります。つまり中性子から電子1個が放出されると、その中性子はプラスの電気を持つ陽子になります。

【図Q】

セシウムはベータ崩壊して、いったんバリウムの準安定状態になり、それからすぐにガンマ線を放出して安定状態のバリウムになります。(下図)

セシウムが体内に入ると、ベータ崩壊して電子が飛び出し、それが細胞を傷つけます。さらにガンマ線を出し、それも細胞を傷つけます。崩壊し終わって安定なバリウムになると、それ以上の被害をしませんから、無害になります。

こうして見てみると、今回の原発事故について、多くの国民は放射能について「全くの無知」に等しい。

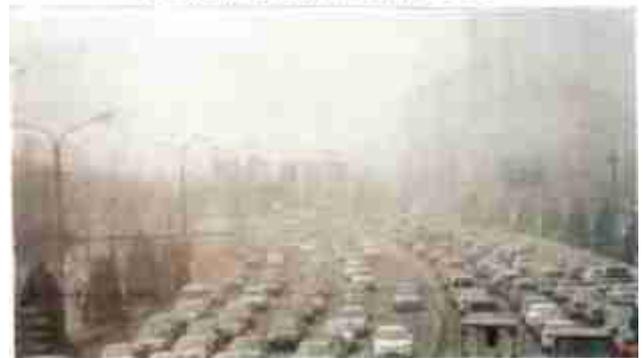
その他、原発事故によって見えていない部分もたくさんある。それは海上や陸での火災によって多くのダイオキシンも発生していると考えられるが公表されていない。

放射能とダイオキシンは、性質も異なるが体内に入ると共にフリーラジカルが発生する。体内における放射性セシウム 137 の半減期は、大人 100~150 日程度であるが、ダイオキシンは半減期的なものではなく、生涯に亘って蓄積される。

このように厄介な放射能やダイオキシンを除去とまではいかなくとも減らす法がある。いわゆる資化(エサ)する微生物がいる。密度を上げると放線菌が増え、ダイオキシンの場合は比較的短期間に分解することも判明。一方、自然界には放射能に対し強い微生物や放射能エネルギーを活用し、無害化する微生物の存在が明らかとなっている。ダイオキシンの分解微生物の増殖を促進したのと同じように、放射能を減少させる微生物も、同時に増殖させると思われる状況証拠もある。法的に全く問題もなく、しかも、農業生産を高め、環境を積極的にクリーンにし、川や海の生態系を豊かにすると同時に、放射能対策に安価で即戦力となる微生物意外にないと言わざるを得ない。

民間企業（ 製造業 ）に勤めて40年余り、その大半を公害防止管理者として汚染と防止に努めて来ました。担当となった頃の日本は高度成長期のまっただ中、製造すればいくらかでも売れる。毎年給料が大幅に上がり、利潤追求最優先で汚染物質は垂れ流しの世相でありました。そうです、今の中国と非常によく似ていました。「 公害 」という言葉ができ世論が大きくなると、公害対策基本法を始めとして、大気汚染防止法、水質汚濁防止法などが制定され、法律によって汚染の防止に歯止めがかけられました。企業は仕方なく利潤とは関係の無い方向に金や人を投入せざるを得なくなったのです。当然、担当者にはあまり必要とされていない人材を、公害防止業務に回しました（回された本人が自覚しているところが悲しい）。業務に能力はいらぬのかと言えば、そんな事はない。国家試験に合格して資格を取得しなければならないのです。見返してやりたい気持ちも有りました。水質、大気、騒音、振動関係公害防止管理者の資格を取得するのに、かなりの勉強をしました。かなり勉強をしました。資格を取得すると自信もでき、胸を張って仕事が出来ましたが、その実態はドブ掃除や煙突掃除、それと廃棄物処理と3Kそのものの仕事が多い。手を抜こうと思えばいくらかでも抜けるが、真面目にやればやるほど、どんどん3K業務が増えるような気がしました。「 会社の為にやっているのではない。吉野川を出来る限り汚したくない、空気を出来るだけ汚したくない。」と思ってやってきました。その思いの延長線上がボランティア活動「一歩会」へと縁を繋がらせてくれました。何時しか30年がたち、今や「 公害 」という言葉もあまり使われなくなり、「 環境 」という言葉に置き換わりました。

多くの企業はこぞって「 I S O 1 4 0 0 1 」を取得し、「 地球環境保全を第1に考えて事業をしています。」と宣言しなければ。取引先やお客様から相手にされない時代へと移り変わりました。今にして思うのです。昔、汚染という言葉が頻発していた頃は確かにひどかった。しかし、汚染とは未だ地域限定的なもので、修復可能なものを言っていた様な感じがします。今は修復は大変難しい。「 地球温暖化 」 「 オゾン層の破壊 」 など、人類の生存をかけた地球環境保全を議論する時代になったのです。一見、大気や水質は良くなったと云っても目には見えない所で、環境破壊はどんどん進んでいたのです。

**中国国内の汚染は深刻な状態**

大気汚染物質にかすむ北京市内の様子2013年1月28日

← 人工衛星アクアが2012年10月20日に撮影した中国の大気汚染物質（灰色）が東に向かって流れている。

「福島への支援、ボランティア報告」

徳島市 林 大輔

私は、徳島大学の学生達と共に2012年5月3日～6日まで福島県に震災支援ボランティアへ行って来ました。初日は、早朝に出発して一般道と高速道を利用して14時間かかりました。そして、福島に到着すると全国各地から参加している青年が集う全体交流会に参加しました。その中では、先に仮設住宅への聞き取り調査をしていた方から『がれき処理が進行しないと復興できない』や『おまへたちは福島の現状をわかっているのか』などの被災者からこえが聞かれました。また、福島県の高校生からは『今でも女の子らしくスカート穿きたいけど放射能が気になって穿けない』という怒りの声が聞こえました。

2日目は、午前中、松川町の仮設住宅に居住している5人の年配の方々と対話することが出来ました。その中では、『車がなく、自分でスーパーなどで買い物をしたいけど出来ず、不自由だ』や『子どもの環境が変化したのでストレスがたまっている』という不自由な毎日を1年たっても変わらず、過ぎていきます。午後、南相馬市の津波現場を見学に行きました。下記の写真通り未だ復興への足取りは進まない状況です。



南相馬市の津波による火力発電所周辺の様子



南相馬市の岸壁の損傷

そんな中、津波現場となった街に居住していた1人の男性がたまたま私たちに話しかけてくれました。そこで感動したのは『ここであると落ち着く！』という発言です。この津波現場には、震災前は140もの家が並んでいましたが津波の影響で家が簡単に投げ倒され、60名の方が亡くなりました。

その後、全体会では大学生3名が発言しました。

話を聞くと言うよりも話して下さったという感じで、色々と考えさせられました。被災地の現場を実際に見に行くと、テレビとは違い、言葉を失ってしまいました。

ゴールデンウィークが終わったら、ボランティアを自己満足せず何かしら続けていきたい。ここに来るまでは、原発は避けて通れない問題だと思っていました。日本のエネルギー供給にとって、切っても切れないと。だけど、飯館村の人たちは原発は無いほうが良いと切実に話していました。大学で、太陽光では日本のエネルギーをまかなうことは出来ないと云われ、それしか聞いていなかったら、そうだと思ってしまう。そういう時こそ、立ち上がらないといけないのではと思いました。工学部の学生として、具体的な行動をしていきたいし、政府や技術者に対して、しっかり投げかけていきたい。

自分の意見として原発は反対。ゼロサムではなく、科学から受けているメリットだけでもない、リスクについても考えないといけないという感じです。

3日目は、川俣町の仮設住宅に行きました。この仮設住宅で居住している方からはこんな声が『どうしようもない』、『賠償を早く解決してほしい！』、『涙が流れるほど心細くなる』、『きちんと除染してほしい』、『今でも家に帰って野菜を育てたい』。

また、徳島からは1.5トンのトラックに大量のお米とニンジンの箱を運んできました。私は非常にびっくり、一袋ずつ小分けしたお米と人参は、早速被災者の手に届きました。



川俣町の仮設住宅



徳島からの支援物質、米と人参到着

その後は、高湯温泉、あつたか湯へ足を運びました。



高湯温泉



海から200mの墓地。津波で流された墓石が拾い集められ並べられていた。

(8月13日 南相馬市)

この温泉は、すごく硫黄の臭いがして本格的でした。そして、全体会は徳島の学生が全員発言できたというすごい快挙。本当によかったです。

一步会及び一步会ユース会員の皆さん方をお願いします。

3.11の震災の後、原発から風力や小水力、地熱、太陽光など地球にやさしいエネルギーに変わりつつあります。でも、なるべく節電意識を高く持ち、地球環境改善の取り組みを一致団結して取り組みましょう！

そして、会員の皆さんが福島へ何かできないかと思っているのであれば、まず、現地に行きましょう！ 現地福島は復興に向けて頑張っています。一緒に手伝いましょう！これで終わります。有難うございました。

静かな漁師町、伊島の海洋汚染を考える

小松島市 富田 欽二

2年前の3月11日、東日本大震災が起き、被害を受けた岩手、宮城、福島の3県で死者1万5,786人その中、90%以上の14,308人の死者が溺死（65%が高齢者という）であり、津波の猛烈さが思いやられる。其れに伴う、福島では原子力発電所が破壊され、その汚染が30年以上いやそれ以上、無人化されるのは10万年も掛るといふ。そんな東日本の津波に伴う日本のがれき汚染物質がハワイ、カナダ、アメリカ西岸と漂着し、問題となっている。そんな時、徳島県においても平和な島、伊島においても北側にある、僧渡浜では海洋汚染、材木、漁具、缶ビンペットボトル、家具その他、あらゆる漂流物が1~2mの高さまでなり、漂着している。この場所は地形的に大阪湾の入り口に位置し、湾外より潮流に乗って入ってきた漂流物が、引き潮の時に、漂着するのではないかと、台風等漂流物がある時を想像するとぞっとする、過去において約15年前には新町川を守る会や島さん達が皆に呼びかけ、汚染された漂流物の撤去を実施、当日は120名ぐらいと協力者があり、島の人達と一緒に、150トンぐらいの漂流物を撤去、その後は島の人達の暖かいもてなしの食事を戴いた。それが、約15年たってまた同じ酷さに逆戻り、少子高齢化になり、住民も少なくなった中で、どうすれば漂着物を防止できるのか、皆で考えなければならぬ。というのは、私が今、環境保全を目的として活動する、NPO法人徳島共生塾一步会にて室戸阿南海岸国定公園、東山溪県立自然公園のパトロールを5人がチームを組んで（1）淡島~柏半島（2）津乃峯山周辺（3）橘・弁天山~美波境界（4）伊島 それに（6）中津峰山以南（7）鶴林寺を春夏秋冬、季節や環境が変化する中、自然や状況を観察し出来るものは保全し、県にその事などを報告するのが目的ですが、今回は伊島の状況など汚染に直面しているのでPRする次第です。

伊島の状況、

場所、伊島は蒲生田岬の東方6Kmにあり、阿南市域の最東端、太平洋と瀬戸内海の境が蒲生田岬と日御碕灯台を結んだ線であるが伊島は丁度この線上にある。島の周囲9.8Km 面積1.58平方 Kmである。伊島は本島と前島、棚子島の3島を言う。現在、人が住んでいるのは伊島の西側にある瀬戸という地域のみ78世帯181人（平成23年3月30日現在）が暮らしている。生業は漁業でその多くは海士である。5月下旬から6月上旬にかけて上品な香りの「ササユリ」が淡いピンク色の花をつけ、夏には陸生のヒメボタルが見られる。

電気の暮らし、伊島へは阿南市のJR 橘駅に程近い答島より日に2回ほど20人ほど乗船可能な連絡船「みしま」が出ていて、30分弱、時々欠航になる恐れもあるが、普段は快適な船旅である。阿南市より大部離れた島であるため歴史を辿ったり、旅館桧垣の女将に聞いて見ると昭和4年に自家発電機が新設され、ジーゼルエンジンによる発電が開始され、午前06時から10時、午後4時から7時まで通電したと云うし、徳島県の資料によると昭和5年に147戸に送電、終戦の昭和20年には230戸、昭和40年には147戸に送電されたとある。其れまではランプであった。海底ケーブルも昭和47年離島振興法により椿泊刈又岬より引かれ、「伊島風土記」には昭和45年になってやっと海底電線が付設されたとある。

平成22年やっと水源を確保、それまで監視報告の為、伊島の灯台(高度124m)に行く坂道途中に砂防ダムため池がありいつも緑色に濁っていたのがあったが、それを市や住民によると島では1955年に谷水を活用した簡易水道が出来たが水量が足りず砂防ダムに貯めた雨水を浄化施設で急速濾過して使っていた。しかし、渇水時には水質悪化による匂いがあり、水が足らず、船で運んだという。このため井戸掘削による水源確保を計画、平成22年4月ようやく伊島小、中学校の敷地の地下40mに水源を掘り当てた。水量は今まで使用されていた

量の2.4倍の120トン異常が賄えるほど豊富で、水質は飲料水に適しているとの検査結果が出た。水道料金も変更はなく水質悪化や水不足に悩まされてきた島民は喜んでいるのが現状。

生業、伊島漁協内には海士組、海老組、釣組があり。

(1) 海士組、伊島の漁業の中心を占めるのが海士である。潜水という海士の基本所作が、後の器具の様々な発達によって朝鮮半島や瀬戸内海等での潜水器漁業で先駆をなした。その技術がまた漁業と異なる築堤工事などの土木分野への応用、発達を見せたのが伊島の大きな特徴という。伊島の人々が阿潜水器魚業の新しい漁場として見出した地が朝鮮半島であった。それは明治43年8月の韓国併合前後の両国の状況が背景にある。栗田徳三が伊島沖で沈没した商船学校練習船の引き上げを目撃、徳島市の谷直吉、県水産技師庵原文一の援助を得て、潜水器漁業の研究を着手したのが明治22年であるから、伊島近海での潜水器を使用しての出漁が問題になったこともあって、渡りに船であった、国の植民地政策の上に伊島の潜水器漁業が展開したという。こうした事で朝鮮半島において伊島の人々による潜水器漁業が定着し、流通等それらに従事する人達が伊島から大勢移住した。一方、朝鮮半島の人達が日本にやって来て、伊島の人達の仕事にもかかわっていた。一つは昭和17、18年ごろ、タイラギやイガイを取るために瀬戸内海に展開していた潜水器漁業への参加ともう一つは伊島でのサザエの缶詰め工場の労働力としてである。このように、日中戦争から始まった15年間もの戦争の中で、国策に乗じて潜水器漁業を軸に財を成した人もいたが、敗戦という状況の中で、総てを失った人も多い。ただ、この時期の伊島の人々の経験は、周囲9.8Kmという空間をはるかに超えており、サルベージ等、島外で活躍している人々も含めて、それ以降の伊島の人々の生き方の原点を形成した様である。

(2) 海老網、毎年、操業する船を受け付け、その船数によって区割りが行われた。瀬戸内海などへの出稼ぎ漁があった時には届け出た船数+ α で区割りを決めた。この α というのは出稼ぎに出られなかった船の為に割り振ったもので、如何にも伊島らしい温かさである。「追番」という制度もあり、その日の割り当ての区域の権利者が入網した後の網入れを認めたものである。漁場は毎日変わり、1番は2番へ、2番は3番へとずれる。化学繊維の網でなかった頃は毎日乾燥が必要だった為、東西それぞれ区分けし、くじ引きで干場を決めたという。

(3) 釣り、サワラ釣りアジ、サバ釣り、太刀魚釣り、イカ釣りがある。サワラの上引き漁は船から数本の棹を出し船を進めながらサワラを釣る漁法である。エサにはドジョウやサンマを使う。そのエサには漁師がそれぞれ工夫して釣り針を取り付け泳いでいる様に見せるよう改良している。アジ、サバの釣りはシラスのまき餌で釣る方法と鳥の羽毛をあしらった擬餌針を50ミリ間隔で35本付け、船で行くのと深海を曳く方法がある。前者が夜釣りで、後者が昼釣りである。この様に住み易い島ですが、旧港より弁天島の東側にある空也上人の上陸地と云われる僧渡浜(約150m)の現状は酷いもの、状況をお知らせし、皆様のご協力をお願いしたい次第です。



伊島北西にある弁才天、右側の浜



僧渡浜の漂流物



漂流物が2重に連なる

『 汚染とは？ 』

鳴門市 川井 ふみ子

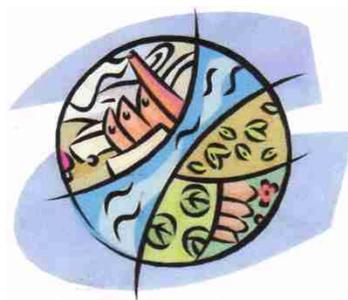
汚染とは？でお題をいただいてから、空を見上げることが好きな私は、いっそう見上げることにしました。私の子供のころには、都会にはスモッグというのがあって、自動車や工場の煤煙で洗濯物が汚れるという現象がありました。でも、工場のもくもく流れる煙には、お父さんが仕事をしているという感じがあって、うれしい思いで見ましたから、お母さんが愚痴をこぼしていても気にすることはありませんでした。煙が真っ直ぐに昇っていると風が無くて、テニスをしても球が飛ぶなあ～、なんてことを思っていました。



徳島では、自然が豊富で、山、川、海では十分遊ぶ事ができて、本当に子供たちは幸せです、ところが、2年前の東日本大震災では、子供も大人も自然の有難さを思い知らされた事故でした。もう一度、自分の環境が良くなったことの見直しを考える時が来ています。地球温暖化防止という言葉は、今こそ活用し、見直していく時ではないでしょうか？

空を見上げるのが好きな私は、徳島大学の『星座をみよう』という講座に参加してみました。宇宙は広い、広いのはわかるのですが、その宇宙の中の地球の小さいこと！！感嘆詞がいくつもつきたくなるほど小さい！ その地球の温暖化防止と叫んでいます、地球さん ～あえてにんげんのように～ にして

みれば、おできが出来れば、それを膿として取り除くくらいの力はあると思うのです。人間がどんなに頑張ってみても、火山の爆発や、地震を防げないように、そこで、人間は防ぐことつまり、防災あるのみだと思うのです。



今まで電気を使い、自動車を使い、自然を破壊している人間、人間そのものが汚染行為をしていると思います。少しでも地球さんを大切に思うなら、自分のできることを探し出し、実行していくことをおすすめします。空や山、川、海を見て、何かを感じ、想像できる人に私はなりたい

と思っています。参考までに、汚染には次の10項目があるそうです。

- 1.熱
- 2.大気
- 3.土壌
- 4.農薬
- 5.複合
- 6.環境
- 7.放射線
- 8.菌
- 9.物
- 10.空気

どの部分を取っても重要なのですが、先ず、自分のできる場所から始めてみませんか？徳島共生塾一步会は、さしずめ「3.土壌」汚染に立ち向かっています。現在の四国八十八ヶ所の遍路道の清掃活動は、まさしくその地球さんにとっても大切な活動になっています。

皆さんのお力をお貸しください！

1人の力は微力でも、みんなで力を合わせれば大きな力となります。

吉野川市さくら診療所の井下医師の講座を要約して報告します。

放射線の種類：放射線には α 線 β 線 γ 線があり、これらは核反応により発生する。 α 線は α 崩壊によって放出されるヘリウム（He）原子核が飛び混じっている素粒子線である。 β 線は β 崩壊で発生する電子線である。 α 線が離散的なエネルギーを持っているのに対し、 β 線は連続的なエネルギーを持っている。 γ 線は高エネルギーの電磁波であり、電荷をもっていない。 α 、 β 崩壊を行うと核のため放射線障害防止法では励起状態（高エネルギー状態）となり、その励起エネルギーが γ 線として放出される。 γ 線は α 線 β 線と違い、物質中の透過距離は長い。

放射能の強さ：Bq（ベクレル）という単位で表す。1 Bqとは1秒間に1個の核崩壊を起こして放射線を発生させるという放射能の強さである。「原子力は放射能が出るので怖い」は「原子力は放射線が出るので怖い」と言うべきである。放射線の人体に対する影響は放射線の種類、エネルギー及び人体への影響を議論するときはこの実行線量が考慮され、その単位はSv（シーベルト）である。人間一人一年間で平均約2.4 mSvの自然放射線を受けている。この自然放射線を大きく上回る実行線量になると特に気を付けなければならない。

放射線の人体への影響：放射線を浴びると毛が抜ける、という俗説はかなりの的を射ている。一般的な症状としては、造血機能障害、消化管生障害、皮膚の炎症や潰瘍、免疫力の低下（白血球の減少）などが現れる。また細胞分裂が激しい胎児への影響は、大人よりもはるかに大きい。このため、放射線障害防止法では、妊娠可能な女性や、妊娠中の女性の腹部に対してより厳しい制限値を設けている。放射線が細胞内のDNAにあたると、DNAにある分子の持つ電子がはじき飛んで電離を起こしたり、放射線を分子に取り込んで別の分子に変化したりする。この結果、元が一つの鎖であったDNAが切れたり、配列がずれたりすることで遺伝子情報に欠陥が生じ突然変異などの影響を及ぼすことがある。

劣化ウランの被害：劣化ウラン弾は鉄よりも硬く貫通能力が優れているために、1991年の湾岸戦争以降主としてアメリカ軍によって使用されていた。戦場で使用され微細な粒子となった劣化ウランDUは体内に入ると癌、白血病、先天性奇形の原因になると多くの科学者が警告している。しかし、その警告にもかかわらずイラク戦争ではアメリカ軍はDU兵器を大量にまき散らされたため、1990年代から小児がん患者が急増しているといわれる。アメリカ軍は認めていないようだが早く治療の為、適切な処置を受けるようにしなければ小児ガンや先天性奇形の増加は年率5パーセントであっても10~20年となればスタッフ不足や貧弱なイラクの小児ガン医療は崩壊すると心配されている。

参加者からの質問もいくつかありましたので、一部を紹介します。

【質問1】：ICRPとECRP(欧州)の数値の違いがあり、どちらを適当と信じればよいのでしょうか。

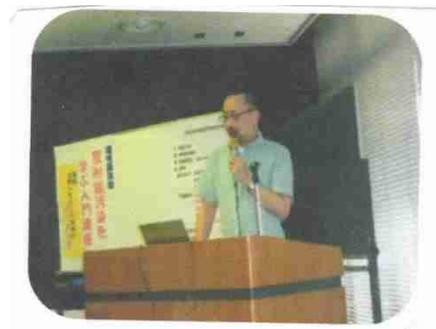
→回答：ICRPは「国際放射線防護委員会」の略称、そしてICRP勧告とは、この委員会が発表する放射線に対する人の防護を目的とした勧告の事である。ECの方がレベルが少し高いというようではありますが日本はICRPを採用、

【質問2】：四国電力の高圧送電塔の下に生活をしている人がいて、その汚染を心配されていますが、

→回答：放射能という汚染は考えられません。高圧電線の被害は今のところ分かりません。

外にも多数の質問が出て、放射能という難しい課題でありましたが、丁寧に答えて頂きました。

井下医師の益々のご活躍を期待したいと思います。



“放射能汚染”豆知識

放射能汚染とは

放射線は、人の臓器・組織に作用するので、これに当たると病気の原因になります。

この放射線が特定の物質（放射線物質）から発せられる場合、その物質に放射能があるという言い方をします。また、放射性物質が安全に管理されず、人の放射線被曝が生じる状態を放射能汚染といいます。

外部被曝と内部被曝

人の放射線被曝が起きる経路には、外部被曝と内部被曝があります。

外部被曝は、人体の外にある放射性物質（放射線源）から発せられる放射線の被曝であり、内部被曝は体内に取り込まれた放射線源が発する放射線の被曝です。

原発事故により起きる放射能被曝

原発の事故による放射能汚染の場合、次のような複数の経路で放射性被曝が起きる可能性があると考えられます。

- 1) 原子力発電所にある放射性物質などから発せられる放射線の外部被曝
この放射線被曝の大きさは、人と放射線源との距離が遠いほど、また、そこでの滞在距離が短いほど小さくなります。人と放射性物質の間に、放射線をさえぎるものがあれば、更に減少します。
- 2) 原子力発電所から放出された放射性物質が風や雨で運ばれた後、人の皮膚や衣服、土壌などに付着して発する放射線の外部被曝
この放射性被曝の大きさは、放射性物質が原子力発電所から離れた場所に運ばれた場合、現に放射性物質がある場所と人との距離、そこでの人の滞在期間、人と放射性物質との間の遮蔽状況によって決まります。
- 3) 原子力発電所から放出された放射性物質が呼吸、飲食、傷口への付着などを通じて人の体内に取り込まれた後、体内で発する放射線の内部被曝
この放射線被曝は、放射性物質が体内に留まり、放射線を発する期間中、継続します。

(インターネットの情報検索より)



**ここからは、
会員のフリーな寄稿とか、
活動報告、情報等です。**



月刊誌『致知』2013年5月号の建築家「池田武邦」さんと工業デザイナー「水戸岡鋭治」さんの対談記事を読んで、一步会の活動に関係する話だと感じたことを紹介します。

■ 人は環境によって育つ

国際鉄道デザインコンテストで「ブルネイ賞」を受賞されたほか、多数の賞を受賞されている工業デザイナーの水戸岡鋭治さんは、人は環境によって育つと考えておられます。

水戸岡さんがJR九州の仕事に携わられた当初のことを思い出しながら、「日豊本線にせよ鹿児島本線にせよ、夜乗るとビールの空き缶が床をゴロゴロ転がったり、つまみが散乱したりして、酔っ払いがいっぱいいたんです。だから子供たちや女性が嫌がっていたんですね。でも、その混乱した状態を整理すると、そういう振る舞いができなくなってくる。躰けられていくといいますか。

やっぱり環境によって人は育つもので、そこでマナーやモラルを身につけたり、ホスピタリティが生まれるところまでいくのでしょうか。」と述べています。

一步会は、当初から国道の清掃活動を行ってきていますが、2012年12月に新開理事長が土木学会誌の依頼で『土木学会誌 vol.92 no.12』に寄稿されています。「道は地域の顔、地域のみんなできれいにしよう」と題して約10年間におよぶ国道の清掃活動（アドプト活動）で感じたこと、良かったことなどを紹介。ゴミを捨てる人は後をたたないが、道がきれいになると、人の心が自然に和らぎ、犯罪の起こりにくい環境をつくる。アドプト活動は大切な市民活動の一環とアピールして締めくくっています。

一步会が参加している『ごみゼロ阿波踊り大作戦』でも、回を重ねるにつれて、周辺商店街をも巻き込みながら、阿波踊り会場とその周辺のごみの量が減少して来ています。マナーやモラルの向上につながったわけですし、阿波踊り見物のために徳島を訪れて下さった方々へのホスピタリティにつながる成果を挙げていると言えます。

■ 自然に関する感性を失っている

日本初の超高層ビル「霞が関ビル」の設計チーフとして活躍された建築家の池田武邦さんは、「人工的に作られた高層ビルを建てていい気になっていたが、自然に対する感性がすごく鈍くなっていると痛感した。それ以来、できるだけ自然と共生することを考えることにした。人工的な環境は人間にとっては不自然だ」と述べています。

また、水戸岡鋭治さんは「デザイナーや設計者は、心地よい環境をつくることで『豊かな空間と時間』を提供し、それによって人の行いが変わる可能性を追求している」とも述べています。

一步会が中心になって行っている遍路道の清掃活動は、ある意味、自然を大切にする活動です。伝統のある四国八十八か所の遍路旅は、四国の自然を肌で感じる旅ともいえます。その自然が汚された環境を美化する活動は、多くの人に『豊かな空間と時間』を提供し、ひいては、『豊かな心』を育むことにつながると言えるのではないのでしょうか。

遍路道の美化活動は、平成16年以来、継続して行っていますが、この活動の持つ意味が、多くの方に認められ、評価されて、数々の賞につながったと思います。

- 2008年7月 環境大臣から「環境美化」で、四国建設弘済会から「地域づくり」で表彰
- 2010年9月 日本計画行政学会会計画賞の最優秀賞を受賞
- 2012年2月 全国地方新聞社と共同通信社から地域再生大賞の優秀賞を受賞
- 2012年9月 徳島経済同友会より表彰

一步会の諸活動が持つ「意味の深さ」を改めて感じさせられ、ご紹介させていただきました。

「加茂谷へんろ道の会」が発足しました



設立総会（5月15日）



「かも道」の一部、心癒される山道です

●阿南市の21番札所太龍寺周辺の遍路道の保全整備を目的に、去る5月15日、加茂谷公民館で「加茂谷へんろ道の会」の設立総会が開かれ、一步会代表として参加しました。遠く関西方面から、由岐坂のクリーンアップでお世話になった歩きお遍路山下さんや本間さんも来られました。加茂地区の方々は、平成19年の「阿瀬比・加茂クリーンアップ作戦」で随分、力になって頂いた懐かしい方ばかりで一步会のことは、知らない人はなく、一步会の参加を大変喜んで頂きました。

●この会の大きな事業のひとつは、最近話題になっている「かも道」の整備保存です

「かも道」は、現在の水井町から若杉集落経由の道（太龍寺道）が使われる以前の古い遍路道で2年前から整備がすすみ、道沿いには南北朝時代の丁石も多く、歴史ある古道として評判をよんでいる遍路道です。行政による道の調査もすすみ、近い将来には国の史跡にも指定されるときいております。

加茂谷地域の方々は、この道をデビューさせて地域の活性化に繋げようと、これからいろいろな事業に取り組もうとしておられます。

●一步会としては、「加茂谷へんろ道の会」がへんろ道文化の育成や、地域に貢献できる市民団体として、健全に発展されるよう支援をして参る考えです。

「かも道」を歩いてみる、環境美化も配慮したクリーンウォークも検討中です。



知っていますか「加茂谷と”かたつむり”」のこと？

加茂谷地域で最近、かたつむりの新種が発見されました。これは大変なことで、2月に開催の生物多様性博覧会でその現物を展示したら、長蛇の列でした。加茂谷は自然豊かで、日本一かたつむりの沢山の種類が生息する地域です。これから、加茂谷のかたつむりのニュースや情報にご注目ください。

県南地域団体の“スキルアップ支援事業”を担当して

阿南市 米川比呂士

二年近くにわたり、この事業に携わることになりこのような仕事の経験がなかった私にとって相当不安に思われました。しかし一歩会を代表してこの仕事を引き受けるのなら、是非とも成功させたいなあという思いもありました。とりわけ新開理事長という頼もしい存在は不安を一気にかき消してくれました。始まってみれば新開理事長の今まで培った交友関係のおかげで一流の講師陣を招くことができました。県南の団体の方々には、大変よい講座であったと思います。

月に一、二回ある講座は NPO を設立したい団体に必要な知識を身につけさせるものであり、困ったことや疑問に思ったことの相談の場でもありました。印象に残ったものとしては、NPO 団体の運営に関する講座（パソコン講座、会計、チラシ作成、助成金）、防災に関する講座、最終の地域 NPO 団体を招いてのパネルディスカッションでした。とりわけ“えひめ NPO センター”の菊池講師は NPO の草分け的存在であり何度も来て頂き、各地域の団体を直接訪問してのコンサルティングもしていただきました。

それと一歩会の方々には、始まった時から最後までご参加協力して下さい、この場を借りて心よりお礼と感謝を申し上げます。誠に有難うございました。

参加者は、20人の時もあり50名を超すときもあり、まちまちでしたが、皆さんそれなりに興味に思った講座を熱心に受講していただきました。講座と講座の間の期間は各種団体を回り講座への参加と NPO 設立、助成金他あらゆる相談にのり、物心両面で協力できたと思います。

その結果、“日和佐まちおこし隊”、“赤松花火保存会”等の NPO 法人が誕生しました。

その他 NPO 団体にはなりませんでしたが、団体をよくするための指導、助言、情報提供等（具体的には団体を訪問しての相談ごと対応、出張講座、神山、上勝、徳島市 NPO 団体への見学）、多くのお手伝いのできたのではないかと思います。

このようにして培った県南の人たちと心と心のつながりができたことは、これから一歩会も地域と一緒に地域をよくしていこうというきっかけがくれたのではないかと思います。私たちはこれからも継続的に地域団体の相談、協力はしていこうと思っています。

すべての講座は3月で終わりましたが一歩会は自然と環境に親しみ会員同士の活動、そのことによって形成される心と心のつながりが私には、大変いごこちのよい場になっていると思います。

私が今願いますことは、年をどれだけとつても一歩会は解散せず存続できたらなあと思います。

右の写真は、上勝の NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミーの視察研修に出かけた時の様子です。ゴミの分別、リサイクルの仕組みが大変事細かくされていて、素晴らしい団体だと感心しました。

(25年3月2日、雪が降ってきました)



「つながり広がれ！ほたる川」

吉野川市 宮本 晴義

「地球環境の汚染」というテーマは、私にとってはあまりに大き過ぎて考えが及びそうもないので、地球環境に置き換えて拙文を書くことにする。

私たちが活動するフィールドの一つに「ほたる川」という吉野川市山川町の中心部を流れる小川がある。その昔、たる所から湧水があり、夏場が近づくとつれ、水遊びや魚釣りをする河童ガキ達が群がり、陽が傾きかけ彼らの甲高い声が聞こえなくなりかけると、そそくさと選手交代を自ら告げた親爺どもがビールを片手に縁側に陣取り、一幅の涼しさをもたらす川風に吹かれながら、いつもの世間話を繰り広げる。こうした光景がごく日常だった所為か、いつの間にか、まぶしく飛びまわり出したホタルなど、全く誰も気にすることもなくなった。

わが国が高度成長期といわれたそんな時代に、学校や公民館が立ち並ぶ近くに「ほたる川公園」を造ろう、という計画が持ち上がった。桜や柳の並木が植えられた広場には、すべり台やブランコが置かれ、水際まで降りて行くと、色とりどりのボートが浮かぶ、こんな完成予想図なるものが新聞紙上に何度か取り上げられた。

ところが、ちょうどその頃から、あれほど勢いよく噴いていた冷たく澄んだ水が段々湧かなくなってきた。一気に濁みが広がり、川漁師が獲っていたアユやエビに変わって、濁りなどものともしないナマズやタイワンドジョウばかり目立ち始め、あのホタルも何処かへ消えて、いなくなってしまった。ついに、悪臭を放つようになり、夜の闇にまぎれて大量のごみを捨てにやってくる不法者しか近寄らなくなった。まもなく、蛍川公園建設計画の中止が発表された。やがて、人々はホタル川の存在さえ忘れてしまい、単なる排水路だと放言する若者も多くなった。もともと集落の生活を支えていたはずの身近な川、その汚れは、私たちの生活様式の急激な変化を引き起こしたのだという、現実につき当たった。必要以上に便利さを求め、大量消費・大量廃棄をする生活がカツコイイ！ともてはやされ、農業は農作業の手間を減らし収穫量を大幅に増やしたもののあふれ出すと当然、川に流れ込んだ。そして、コンクリートで固められた護岸は、小動物だけでなく人も寄せ付けなくしていた。現代社会が抱えるこのような影の部分に目を閉ざしたまま、国からの補助金を当てにした公共事業に頼るだけでは、近づいて遊んでみたくなるような本来あるべき川が再生されることはない。また、誇りを持って将来に伝えなければならない郷土の自然や文化が守られるはずがない。と、こんな思いから、1990年ころ、数名の仲間と「ほたる川にホタルを取り戻そう」という運動を始めた。

みんなでごみ拾いや啓発活動が続けながら、「てのひらひろば」という憩いの広場を造っている。花壇づくりや草刈りは手間隙がかかるが、毎年秋に行われる収穫祭はこどもからお年寄りまであふれる人で埋め尽くされる。しんどいことも、楽しいことも、みんなで行っている。

現在、ほたる川にはホタルが帰ってきている。しかし、まだその数は数えられるほどでしかない。水質も少しはましになって魚の種類も増えている。しかし、渇水時の水たまりには大量の腐った魚が臭う。カメが産卵するため岩岸を必死で上がってくる。カワセミやトンボも棲んでいる。しかし、釣り糸を垂らす子などはまれに見かけるだけ。

ほたる川の今のこの光景をちゃんと自分の目で見て、感じて、行動する人がひとりそしてまたひとり。つながっている。ひろがっている。

『 出 会 い 』 阿波市 笠 井 光 顕

人生には色々な出会いがあります。 その出会いをどう受け止めるかによって、大きく左右に別かれます。私事ですが、動脈瘤の手術を受けました。麻酔から醒めると還暦の誕生日の翌日でした。手術後の経過も順調に進み、退院の時には執刀医から、「今まで通りの生活をしても何ら差し支えありません。」との指示を戴きました。ちょっと待つてよと、そこで、考えさせられました。今まで通りの自分中心の心で過ごすとも、今まで通りの病気に罹る確率が非常に高いので、今後どのように過ごせば良いのかと、思案の挙句、一生に一度の大きな節目に、恩寵的試練を、戴いたことに対し、自分の力では何をどうすることも出来ないことに気付かされ、自然界の中で生かされている自分を今後、自分の為にするのではなく、他人（ひと）の為に使い、今まで受けてきたご恩を少しでもお返し出来る様な人生に切り替えるように心掛けました。 それには生かされている自分自身の体をまず健康な状態に保つことから取り組みました。好きなアルコールを口にせず、食事も精進料理に近い物へと切り替えました。大きな節目に大患を戴いたことに感謝し、若し、これが平時に試練を受けていれば、心身を転換させるような『 出 会 い 』にはならなかったでしょう。健康な状態を維持し何か他人（ひと）の為になることを探している時には地域で障害者の作業所を立ち上げる話があり、責任者を探していることを耳にしましたので、ボランティアで引き受けることにしました。開所当初は仕事が少なくて、パットライスの製造販売を手掛けましたが、製造の段階で砂糖を120度で煮詰める大変な危険なことを想定していなかったもので、障害のある人には危険が伴うので取り止めることにしました。 その後、パットライスの製造は私が個人的に続行し、各種イベントや災害復旧活動（避難所や仮設住宅など）に回を重ねて出掛けるようになり、現地で実演し多くの方に手渡してきました。最近ではパットライスの実演の外に、マジック（奇術・手品）にチャレンジをして、1年位で昼夜を問わず練習に励み、又、自らも新案の道具を考案し図面化し、材料を選択し、制作に掛ります。既に数種類の道具を舞台の上で活用しています。特に自分で制作した道具を使つての演技は他にないという優越感があり、堂々で行えます。今までに県内外を問わず、色々な場所で演技を披露してきました。芸名は 阿波のマジシャン「ミスター こうけん」です。各種行事がありましたら、お声掛けください。万象繰り合わせの上、要望に応えたいと思っています。之からも新たな『 出 会 い 』が出来る事を夢見ながら頑張つて参ります。今後とも一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。 ◎リングを通り抜けるロープ



昨年一步会の新年会での挨拶



日本奇術連盟顧問の北見 マキ 氏の演技

ゴーヤの苗、チャリティ販売

会員小野さんが育てて頂いたゴーヤの苗を徳島市の“びっくり日曜日”で販売、東北支援の貴重な資金としました。

日時	5月12日(日)、19日(日)、26日の3回
会場	繊維団地のびっくり日曜日
参加者	会員：小松夫妻、新開、富田、米川、林、 東北支援団体“ザブ”の2名
販売数量	800鉢 4万円

苗の育成、提供
小野農園



5月12日



5月19日



5月26日

“ザブ”とは、東北支援に取り組む徳島の大学・高専の学生のグループで、今後、一步会ユースとの連携活動も期待される。



ビオトープの「一步村」構想

一步会ユース世話役代表

板野町 黒田明久

徳島共生塾一步会の若者部会ともいべき「一步会ユース」が発足しました。メンバーの一人ひとは、環境問題に中でも自然との共生ということに強い関心のあるものばかりです。定例会でメンバーの一人から、みんなの楽しい共同作業で、地域の傷んだ自然環境を取り戻し再生する活動（“ダッシュ村”みたいな）をどこかの場所で行い、自分たちも自然の良さについて、身体で感じ満喫したいということです。

名称も、“ダッシュ村”ならぬ「一步村」がいいなあということになりました。候補地としては、牟岐、板野、鳴門、徳島市周辺、眉山、佐那河内等あちこちが上がりましたが、適当な場所で佐那河内に場所を確保できました。佐那河内の里山に活動場所を確保できましたので里山編として畑も耕して無農薬野菜づくりに取り組める、炭焼き釜もかまえて炭作りができる、古民家があるので囲炉裏を設けてみんなで自然との共生について楽しく語り合えます。もし、海岸に候補地が見つければ（海域編）、昔はとれていたであろうあさりや魚をその辺りの海に呼び戻すための活動にチャレンジしよう、そのためには清掃活動等も必要になってくると私たちの構想は広がるばかりです。まず、ビオトープのABCの知識習得から始めようと考えております。



「ジェネレーション・ギャップ」

谷口右也（那賀町在住）

私、50歳も中間地点を過ぎて現在56歳、今年は57歳になろうとしています。

その私が、この「ジェネレーション・ギャップ」という表題を使うと、「ああ、谷口もとうとう、若者文化についていけない中高年オヤジになった『ぼやき』か?」と思われるかもしれませんが、さにあらず。（実は、更に深刻・・・?）

まあ3分ほど、おつきあいください。

20代、30代の頃、「気持ち年齢」と「実年齢」の差に戸惑いました。

当然、「気持ち」の方が若く、就職して働いているにもかかわらず、夢の中で、「しっかり勉強して、やりがいのある仕事に就こう!」などと決意を固めている自分がいました。

「肉体年齢」はすこぶる元気で、登山にランニングにと走り回っていました。

この「気持ち年齢」と「実年齢」の差は、広がったり縮まったりしましたが、やがて心身ともに衰えてくると、「実年齢」と「気持ち年齢」、更には「肉体年齢」も同じになってきました。

さて、今年に入ってのぽかぽか陽気のとある日、実家近くのガソリンスタンドで出会った初老のオヤジさん、いやいや、よく見ると中学校の同窓会以来会っていなかった同級生でした。

市役所で管理職をしているとのことですが、口には出さなかったものの、「えらく老け込んでいるなあ。」の感想。

帰宅してからは妻にも、えらく老け込んでいた旨を報告。

夜、寝ようとしたとき、「いや、ちょっと待て。同級生があんな老け具合だと、ひょっとしてあの姿は自分か?」

信じたくない疑問、愕然とした瞬間でありました。

が、そのような疑問や落胆に終止符を打ってくれたのが、送別会での退職する先輩からのお話でありました。

「実は自分も、退職する先輩からアドバイスをもらったのだが、退職後、あれこれやろうと思っているだろうが、衰えていくのは『奈落の底』へ落ちていくくらい早いそうだ。

あれよあれよという間、信じられないくらいの早さで衰えていくそうだ。」

以来、新開理事長をはじめとする一步会の諸先輩方のご活躍には、ただただ尊敬の念に頭の下がる私ではありますが、しかし一方で、「衰えに負けてはならじ。」と誓う、今日この頃の私であります。



以上、私谷口の「吉田さんや十川さんのお歳までは無理としても、新開理事長のお歳までは頑張ります。」の「宣言」でありました。

一步会設立とユースへの思い

北島町 福谷洋介（ユース会員）

一步会が設立してから、17年を迎えましておめでとうございます。一步会の活動が、内外から評価されているのは、参加している一人一人の徳島を美しい街にしたいという想いと行動の積み重ねによるものだと思います。

私が一步会のことを知ったのは、アスティとくしまで開催されたクリーン&グリーンフェアという環境イベントに行った時です。そこで、一步会の活動紹介ブースを見つけて、活動の話を聞いたのが出会いになりました。

そして、使用済み割り箸の回収活動や遍路道の清掃活動など様々な環境活動に参加する中で視野が広がりました。視野が広がるにつれて、今、取り組んでいる活動以外にも環境のためにできることがあることも知りました。

この度、私も含めた青年会員による一步会ユースが発足しました。一步一步歩むという、一步会が活動を通じて今まで大切にしてきたことを受け継いで、これからの一步会を青年有志と共に築いていきたいと思っています。



3月 徳島中央公園お花見会場ごみゼロ作戦 左から羽里君 福谷 林君

「～にんじんの支援と交流から～」

藍住町 小林徳子

1. 東北の被災地・福島県飯舘村の方へ 25/3/11

この度は「徳島ふるさと便」のにんじんを、ご連絡戴き有難うございます。早速に、お申し込み通り、昨日宅急便を贈らせて戴きました。

その後いかがでお過ごしでしょうか？ さぞかし大変なこととお察し申し上げます。

私達、アグリレディーズ交流会のにんじん栽培者有士からの贈り物です。せめて、被災地の方々には、会の方から無償で1回は贈らせて戴きたいと思っていました。特に、今回の品物は、無農薬にこだわっているKさん宅の品物を選びました。良く洗って生で丸かじりすれば、この上ない最高の活用価値があると思います。無償にんじんを贈り始めて3年になりますが、今後も私達に出来ることをしたいと話しているところです。

そんなことで、今年は、徳島県普及職員退職者会の後援で、集荷等の協力を戴き、既に3月の中旬から関係者の方々に送りさせて戴いております。6月の中旬で終わる予定です。

安全・安心・そして安価な^{すりー}3安を、メインにして添付のチラシを作りました。

ついでに添えました野菜類は、今我が家で収穫した無農薬の品物です。レシピも手元にありました物を入れておきます。

2年前にいただいた『しそ巻き味噌』は大変珍しく美味しく有り難う御座いました。私達もにんじんジュースの絞りかすを加えて、シソの葉の出る夏に重宝しております。

藍染も、今年に入り被災地の復興へのお手伝いとして、新築されたお宅にお祝いの藍染め製品をお贈りすることにしました。既に第一号を三陸町のSさんにお贈りした処「励みになった、交流の徴として使わせて貰います」と喜ばれました。

なかなか新築するまでには困難な問題が多いと思いますが、それを乗り越えて完成されたご苦労をこんな形でご慰労し、喜んで戴けたら・・・と思い、手作りして贈りました。

なお、そのような関係者があれば、お知らせ下さい。今のところ難しい条件は決めていませんが、おおよそのことが分かれば、アグリレディーズ交流会から、にんじん資金の有効活用の一部として、お贈りしたいと考えています。

一方的な思いつきですが、今後の交流の仕方について、皆様のご苦労や、困っていること、これからのお考えなど、お聴かせ戴ければ有り難いと存じます。

アグリレディーズ交流会

*代表 771-1211 徳島県板野郡藍住町徳命字元村 2 9 小林 徳子

TEL/FAX 088-692-2806 tokuko@kmd.biglobe.ne.jp

詳しくは右の URL をご覧ください。 <http://www.weli.or.jp/hap/>



被災地へにんじんを贈る 25/3/11

2. 東北農村生活研究フォーラムに参加して 24/7/21

にんじん出荷が一先ず終わり、五月のはじめ頃、仙台の友人からメールで案内のあったことを思い出した。ひそかに抱いていた夢が、案外早く実現できそうになった。

7月20日午後、東北の生活研究フォーラムの前日となった。大阪の伊丹空港近くで前泊し、21日は朝8時の一番の便で仙台に飛び、名取市のイオンモール内のイオンホールで、被災した人達八、関係者の集いに、農村生活研究会員として参加した。初めてのひとに会えるドキメキを押さえながら……。手作りの展示品を見学している中に、11時開会となる。

農村の知恵と技で「仕事」を生み出した話題提供や、身を詰まされる事例報告等に聞き入った。**福島県飯舘村の避難生活の中で**、仮設住宅の管理人を務めるようになったSさん、お年寄りが元気になるよう色々試み、「イキイキサロン」を実施した処、家の中に籠もらないようになったが、少し気になるひとを訪ねた。和服をリフォームして上手にきていることを見つけ、「あら、素敵に着物ね」と感嘆した言葉がきっかけで、その技術をみんなに教えて欲しいと依頼した。リフォーム教室を作り、全国に呼びかけて「使っていない和服があれば、教室で使うので送って欲しい」と呼びかけた処、眠っていた古着の箱が30箱も届けられた。これを巧みに使ってリフォームし、販売することにした。出来た物は、知人が流通業者にかけあって、東京で販売することが出来た。そこで、「飯舘カーネーションの会」を発足させた。楽しみながら、小遣いもうけが出来て、みんな元気になっていくのが眼に見えてきた。今まで何十年働いても、報酬は夫のもので、自分の自由になるお金は手にしたことのない人が、始めて自由に使える金を持つことが出来た。

こんなことから、お年寄りが、いきいきと元気になり、最近仮設住宅で、家の外で話をするひとがふえて、引きこもりの方が無くなった。・・・という1時間に亘る管理人としての体験談を直接お聞きして、力強さに圧倒された。日本全国のみんなが願っている、こんな大切な「仕事を作る」という課題が、身近な暮らしの問題として、然も、農村生活学会の支部活動の延長として、継続していることに、また感動を新たにした。

午後は名取市のHさんが「支援の古着で手仕事に取り組む」話で、会場に展示された手作り品を説明しながら、手仕事の良さと、身近に仕事をすることの喜びが伝わってきた。

最後の総合討議は、前生活改善普及員であった、Yさんの司会で先に発表した2人の他に何が出来ただろうかと問いかけたところ、壊れかけた蔵を壊さずに修復したなど、前に進んでいる話が次々に出て、復興の兆しが十分に伺われた。徳島からは、[1トンの絆]について、にんじん支援と、消費者向けの送料募金について話をした。

被災地の方々にお土産として持参していた「はっぴいウーマンネット」の実物を展示させて戴き、更に「3トンの絆」についても概略の話をする事が出来た。

また、この日のために贈った西瓜が大きな役割を果たした。県内で一番おいしい有名な土柱の西瓜が、日照り続きで甘さ抜群、シャリの効いたお勧めの逸品であった。石巻の集い用の1個を含め、当日会場でクール冷蔵で時間指定が上手く出来、お昼前に届いた。お弁当を注文したグループの方に、お世話になり、出席者約60人が3個の西瓜を切り分けて、デザートに振る舞ったところ、「甘ーい。土柱の西瓜美味しい・・・」と大好評であった。



にんじんの取り持つ交流

夕方から石巻市に移動し、牡鹿半島の遠くから、40分もかかって態々集まってきてくれた生活改善グループのプチトマト部会の人達。去年から今年もにんじんを贈った地域である。夜の更けるのも忘れ、当事りのことや、今していること等、親しく今後の見通しの立たない希望についても語り合った。その一つに、高台に集落を集団移転する計画をしているが、家の建つのは3年先という。「従来の家も補修して、牡蠣の養殖の作業場として使いたいし、2戸の家の二重管理を考えると、大変だなあ・・・」と溜息が伝わってきた。今までの半農半漁の経営を続けているひとは2戸に減って、介護施設や、芽株のわかめ加工所に通勤しながら、牡蠣の養殖にも朝晩、精を出しているとの話を聞いた。今後、どう生計を建てるか、という根本のことで一杯で、暮らしの課題が山積する人達を、何とか元気づけたいと思った。

22日の日曜は、山の中腹の避難所になっていた洞源院のお寺さんを捜した。住職さんや、200人のお母さん役を務められた奥さんにもお会い出来、避難所50日間のみんなの言葉を記録編集した貴重な本の宝物を戴いた。お二人の温かいまなざしと、優しいお声がとても印象的で心に刻み込まれた。

午後は仙台に引きかへし、Yさんを紹介して下さった、Oさんを探し当てた。車いすであったが、老老介護のご主人と、幸せそうなお二人に、短い時間であったが、「又会いましょう・・・」と、日本女性会議 仙台の予定表をお渡しした。被災地の復興の分科会にも参加、実態を共有する機会となった。

・仮設住宅の中から立ち上がった自立復興への歩み

にんじんの取り持つ人と人の巡り合わせが、こんなにも奇妙だとは・・・初めての発見と味わいであった。幻の方々にお会い出来、しっかりと相手を確認することが出来た。初めてとは思えない親しい話題が次々に続く。「今は平地になって草が生え茂っているところは、全て津波にながされた家の跡です。」と説明して下さった言葉に、深い衝撃を覚え、足が震えて止まらなかった。又とない貴重な3日間を脳裏に秘め乍ら、余韻に包まれた仙台空港を後にした。

3. 日本農村生活学会に参加して 24/12/24

去年の夏、1通の手紙が私の心を揺さぶった。日本農村生活学会員各位にあてた通知であった。会長から第60回日本農村生活研究大会の一般報告の募集で「ふるってご応募下さい。」の一文であった。それは、60年前の第1回に生活改善グループ員に、付添として同行した思い出多い場所と節目だったからだ。

退職して二十数年になるが、地元や県内のボランティア活動に終始。交流サポーターとして平成18年から、農家のための支援を続けながら、新しく展開する次々の夢に追われている。

藍と特産物の利活用、特ににんじん規格外品の消費拡大・自給率の向上の取組があった。23年度は、送料を募金する被災地の支援と、消費者向けを併せて1トンを発送した。24年度は[はっぴいウーマンネット]で3トンを送った。被災地の方々との交流を続けて3年半になった。

にんじんの支援と交流を通じて、農漁家の元気と地道に継続する力を出す、最良の機会を得た。国産品の自給率の向上と、消費拡大に繋がっていく役割を、一歩前に踏み出したような気がする。「形ある物は全て津波に持って行かれた」と嘆いていたわかめのSさんを探し当てた。三陸沖の元生活改良普及員だった。高台に新築した家に、藍染めの新築祝い第1号を贈った。農山漁家の底力は大きく、被災者に寄り添う気持ちを持ち続けることが大切である。今回の日本農村学会は、60周年記念に相応しい内容で、久しぶりの私の発表も重なり、今までにない充実の会となった。特に基調講演では、最初の立ち上げから活躍されたお二人の先輩の先生と初めてお会いし、共感することが多かった。第一回と今回の両方に出席したのは、数少ない中の一人でないかと、人知れず貴重な存在感を味わった。

総会と環境講演会の報告

五月二十五日（総合福祉センター）



総会は谷口議長で予定通り（19名参加）



講演会は会場満杯46名



話に引き込まれて退座もなし



講師の井下医師（さくら診療所）



質問する山田さん



質問する小野さん

この人も参加（原村長）
じっと聞き入る



平成25年度役員紹介

平成25年度の役員が選任されました。(任期は、H25年5月～H27年5月)

理事長	新開善二 (徳島市)
副理事長	山田達男 (阿南市)
〃	富田欽二 (小松島市)
理事	小野信明 (徳島市)
理事	吉田后恵 (徳島市)
理事	島博 司 (徳島市)
理事	小松美智子 (徳島市)
理事	三田直亮 (阿南市)
理事	計盛幸雄 (阿南市)
理事	山室昭次 (鳴門市)
理事	宮本晴義 (吉野川市)
理事	十川茂雄 (阿波市)
理事	谷口右也 (那賀郡) 新任
理事	黒田明久 (板野郡) 新任
監事	吉崎住夫 (徳島市)
監事	川井ふみ子 (鳴門市)
(敬称略)	以上 理事14名 監事2名

新任役員のプロフィール

谷口右也さん

環境首都とくしま創造センター
(エコみらいとくしま) 事務局長
(沖洲工業団地の一番奥です)



昔の名前で帰ってきました。
ピカピカの1年生で頑張ります。
よろしくおねがいします。

黒田明久さん

地元板野町の中堅製造業に勤務。
一步会ユースの世話役代表でも
あります。最年少の役員です。



今あるのは、“若さ”と“心強い
ユースの仲間”です。
役員会の平均年齢がいくつか
下がったのでは。

一步会の若い活動仲間です

～徳島文理大学生の自主活動G～ HENROZ (ヘンローズ)

徳島文理大学総合政策学部は、地域貢献事業として、遍路道の美化推進活動に取り組んでいる。大学としては、この事業は学生の自主的な運営で実施されるよう求めてきた。また、学生自身の自主行動意欲の養成をも期待していた。一步会では文理大よりの要請により、毎年、この事業の支援を続けてきた。大学の期待に応じて、学生有志はこの事業の実行委員会を立ち上げ、遍路道の美化活動を続けている。この実行委員会は、学生のサークル活動部“HENROZ”として命名することになったもの。

平成24年のグリーンミッション(眉山の遍路道美化作業)では、事業の企画、事前準備、行政への協力依頼、マスコミとのコンタクト、当日の作業運営等一切をHENROZが取り仕切った。

その活動が評価されて、平成24年度の「とくしま環境県民会議」より団体表彰された。(新開記)

とくしま環境県民賞を受賞のHENROZ



～東北支援グループ～ ザフ (THEPH)



当会のチャリティ販売に参加のメンバー
(中田さん・徳大、天羽君・阿南高専)

徳島県内の学生等若者の力を集めて、東北被災地を支援しようと平成24年に組織されたボランティアグループ。

四国大の櫻木杏子さん(三年生)他6名が呼び掛け、徳大や阿南高専等の学生約40名近くが参加している。

本年3月には、宮城県三陸町に出かけて、がれきの片づけ等の復興支援作業に参加したが、この9月にも三陸町に出かける。

一步会では、ユースとの親交があり、ゴーヤの販売代金の一部を活動資金カンパした。ゴーヤは会員小野さんが育てて頂いた約1000株で5月のびっくり日曜市で3回にわたり、チャリティ販売した。これにはザフの二人も一緒になって参加して、東北支援をアピールしたゴーヤの苗販売を呼び掛けた。(林大輔記)

事務局便り

昨年12月26日は不評の民主党の3年間の内閣に変わり、ようやく自民党が選挙に勝って、第2次阿部内閣が誕生した。その後半年余、アベノミックスで円安株高と期待感が高まり、100円台という円安で推移しているが、給与はそう上がらず、また燃料高と悲喜こもごも、来年4月の消費税8%アップに向け日本の社会はすっきりしない情勢である。そんな中、福島原発の後遺症は汚染水や放射能の汚染など何時になったらすっきりするのか？ その影響もあり、東日本の大震災の復興は大変となりそう。

そんな中、一步会では昨年は美波町日和佐や阿南などで地域活動の「スキルアップ支援塾」では、資金獲得、団体の悩み、地域団体の役割、災害時のボランティア等の研修会を実施できました。それ以外、福島の入居者等移住者の為の佐那河内村の民家改修、それにお遍路さんがよく利用する入田、歯辻神社近くの道路や阿南市福井町の鉦打橋の遍路道などのクリーンアップ作戦等と県下の幅広い活動に取り組みました。今までは昭和CGの公園管理や小中学校の緑化推進絵画展コンクール等で、多くの皆様のご協力を得ていた訳ですが、幅広い地域の活動にも参加頂き、有難うございました。今年も皆さんの更なるご参加をお願いいたします。また、一步会ユースという若手の会員が昨年暮れから活動を開始しています。若手ですから行動もフレッシュです。一般会員からのユース活動への支援やご協力も合わせてお願いいたします。

◎ 小松島市櫛淵の萱原小松島バス終点ターミナル付近の遍路道のごみ汚染とクリーンアップ作業



付近の建築作業現場には漁船2隻、コンテナのトイレ4セット建築鋼材などが捨てられていました。この付近は恩山寺、鶴林寺利用の遍路道の一角です。本年4月1日の作業で廃材、家電、自転車など2トン余のごみ回収をしました。

編集後記

今回の会報第15号は「汚染」というテーマを取り上げました。東日本大震災は大きな環境汚染をもたらしたし、福島の原発も大きな被害を出し、放射能汚染という、かつて人類が受けたこともない大きなトラブルが発生し、一層の課題が山積するばかりです。身近な空気、水、海、土壌 等などの汚染は我々人間が生きるためにも解決しなければならない課題で、安全な生活を取り戻さねばなりません。このように難解なテーマでしたが、多くの会員が寄稿していただき有難うございました。私たちは、小さなことでもいいので、できるだけのことをしようじゃありませんか。今回も表紙は内田さんが又、印象に残る素晴らしい作品を作ってください有難うございました。内田さんには、また来年も出来ればと期待しております。

～蒲生田海岸クリーンアップ作戦～



砂浜の汚れを無くして、
海亀を迎えよう！



6月2日(日)



海亀が上陸産卵する阿南市の蒲生田海岸で、地元環境団体が主催するクリーンアップ作戦に、一步会からも10名余の会員が参加しました。一步会の委託事業である国定公園環境監視事業の区域でもある蒲生田岬一帯は、ごみの漂着が多く、砂浜の汚れを無くして海亀の上陸を迎えようと300名のボランティアが汗を流しました。(新開記)